

一 覆盆子 一 荷 例年

〔武江產物志〕藥草道灌山ノ產 懸鉤子もんぢいらと 藕田蔗なはしろいちん 早稻田邊 覆盆子 關口、本所ニモ、鼠山ノ產

蓬藥つるいちじ板シバイナ町

〔續江戶砂子一〕江府名產 井近在近國

地覆盆子 牛込の先關口の邊より出る

近在は青梅、和田、柚木、下村、島中、駒木野、神護寺、金南寺、河崎稻荷新田などより出る、

〔藝備國郡志〕安藝土產覆盆子 出佐西郡能見島、土人取之賣酒店、酒家漬、此於酒中、以爲覆盆酒、其

味大甜、

〔日本書紀〕雄略四九年七月壬辰朔、河内國言、飛鳥戶郡人田邊史伯孫、中月夜還於蓬、纂丘譽田陵下、

蓬、纂此云、伊致、寐姑、

〔本朝無題詩〕二植物賦覆盆子

夏來偏愛覆盆子、佗事又無樂、不窮味似金丹、芳感美、色分青草、只呈紅、真珠万顆、周墻下、寒火一鑪、孤

蓋中、酌酒言詩、歌舞處、滿盈珍物、自愁空、

〔古今著聞集〕五和歌同大將源頼朝もる山にて狩せられけるに、いちごのさかりになりたるをみて、と

もに北條四郎時政が候けるが、連歌をなんまける、

もる山のいちごさかしくなり、にけり、大將とりもあへず、

むばらがいかにうれしかるらん

〔庭訓往來〕御札之旨、大齋之體、心事難申盡候、中時以後菓子者、中覆盆子、

〔本草和名〕十蛇全楊玄操音泉、陶景注云、是蛇含、蘇敬注、一名蛇銜、一名朝生、藥性、一名女青、藥、一名

兜鈴蛇銜出雜和名都末女、

蛇含

法性寺入道殿下忠藤原